



1月号

令和2年12月25日
横浜市立 星川 小学校
校長 小西 俊光
TEL.332-2101 FAX.331-5052

WEB ページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hoshikawa/>



令和3年は「転換（新しい出発）」の年

学校長 小西 俊光

令和2年は新型コロナウイルス感染症拡大により、これまで当たり前のように行ってきたことができなくなり、「咳エチケットと手洗い」「三密を避ける」「不要不急の外出はしない」など様々な感染防止対策が出されました。学校も6月からの始業となり、様々な学校行事が延期・中止せざるを得ないことになりました。そのような状況の中、できる限りの感染防止対策を講じ、保護者の皆様、地域の皆様のご理解ご協力のもと、星の子運動会や御殿場宿泊体験学習、日光修学旅行を実施することができました。これらの行事の中で、子どもたちの笑顔や、行事に向けて頑張る姿を見ることができ、改めて実施してよかったと思いました。

現在も感染症拡大が止まず、国民のさらなる自粛が求められています。横浜市教育委員会から出された「いじめ防止に向けた提言～青少年の健全育成のために、子どもに関わる全ての大人に向けて～」の中に、次のようなことが書かれています。

「今年度、新型コロナウイルス感染症拡大予防のために、子どもたちは、『人とのつながり』が分断される状況を余儀なくされた。しかし、本来、人と関わることは、お互いに温かさや安心をもたらすことであり、孤立を防ぐことである。この社会状況を契機として、今、改めて『人とのつながり』の大切さについて考えていく必要がある。…（中略）…新型コロナウイルス感染症に伴う、偏見や差別の問題の発生、そうした問題に向き合うことを倦厭する社会の雰囲気から脱却し、改めて、大人も子どもも共に社会全体で『いじめ』と向き合い、改めて『いじめ』の捉え直しをしていく必要があるのではないだろうか。…（後略）」

～横浜市いじめ問題対策連絡協議会「いじめ防止に向けた提言」より抜粋～

この提言の中にもあるように、このような社会状況になって、改めて「人とのつながり」の大切さを実感された方も多くいらっしゃるかと思います。そうしたことを実感できたことは、不安や窮屈な思いをしたこの10カ月間の中での貴重な経験だったのではないのでしょうか。これからは、現在の社会状況の中で、どのようにして「人とのつながり」を創っていくか、これまで当たり前と思っていたことも見直していくことが肝要だと思います。

また、私たち一人ひとりが自らの行動を見つめ直し、「我慢すべきことは我慢する」「やるべきことは、感染リスクができるだけ低くなるよう工夫して実行する」など今の社会状況に合わせて、メリハリのある行動をしていくことが、今求められている新しい生活様式ではないのでしょうか。

令和3年の干支は「辛丑（かのとうし）」です。「辛」は「草木が枯れ、新しくなろうとしている状態」、「丑」は「種から芽が出ようとする状態」のことで、それぞれ、「新しくなろうとしている」「芽を出そうとしている」という意味があるそうです。令和3年は、新しい生活様式に変わっていく「転換」の年になることと思います。まさに「新しい出発の年」です。学校では、学校行事や学校教育の在り方について改めて見直していこうと考えています。そのためにも保護者の皆様、地域の皆様のご理解ご協力が大きな力となります。令和3年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。